

第1回笠間市「道の駅」整備推進協議会「議事要旨」

【開催日時】 平成29年12月25日（月）午後3:00～5:00

【開催場所】 笠間市役所 2階 大会議室

【出席者】 別紙のとおり

【内 容】

1. 開 会

2. 委任状交付

3. 市長挨拶

4. 委員紹介

5. 会長、副会長選任

会長は東徹氏，副会長は石井みな子氏が選任された。

6. 会長挨拶

7. 議 事

(1) これまでの検討経緯について

笠間市「道の駅」事業の検討経緯を事務局より説明。

(2) 基本構想・基本計画策定業務について

コンサルタントからの説明を受け、コンセプト・一次案（ゾーニング）等についての意見交換。

(3) WEB調査について

コンサルタントによって実施するネットリサーチについて説明。

(4) その他

次回の第2回整備推進協議会は、平成30年1月24日（水）開催予定。

（協議内容については、ネットリサーチ調査の結果を踏まえた、導入機能、施設規模、及び配置計画等の協議等）

【意見一覧】

○ 笠間市「道の駅」のコンセプト等について

- ・ 南吉原、手越地区では、ものづくり作家、陶芸作家、地元農業者が参加するオープンギャラリーを毎年開催している。毎年多くの女性が参加しており、「道の駅」との連携ができれば良いと思う。
- ・ 食べ物と陶芸はマッチングしやすいものであり、「道の駅」で実現できれば良いと考えられる。
- ・ 笠間市らしい「おもてなし」をどう表現するかが大切である。

- ・ 笠間市は茨城県の入口という役割だけでなく「入出口」の役割を担うことが出来ると考えている。
- ・ 笠間市は茨城県の中でも縁起の良い場所であり、愛宕神社という日本三大火伏せの神様が祀られているなども、含められないか。
- ・ 午前中のみの特産品販売だけでなく、午後観光客の帰路時間に合わせた特産品の販売出荷など、多様な観光客の時間帯に対応し、ビジネスチャンスを拡大すべきである。
- ・ 「道の駅」を整備するのであれば、地域を象徴するアイコンがほしい。例えば水車は綺麗な水を表現するシンボルに成り得る。笠間市は日本最古の酒蔵があり、水が良い場所。また、御神木といったシンボルが必要では。
- ・ 高齢化を見据えたときの、医師、看護師を常駐させるのは難しいと思うが、薬局機能等があれば地元住民の集客が考えられる。
- ・ 茨城県内において笠間市はフォトジェニックが多い場所である。
- ・ 整備周辺及び笠間市内の景観フォトコンテストを開き、来客者に「道の駅」の発見をしてもらう。
- ・ 資源を固定化しない方が良く、どのような形で表現するか、また地域の眠っているものをどう表現するか。
- ・ 茨城県全体のインフォメーション機能を取り入れては。
- ・ 笠間市は観光資源が沢山あるが全て分散している。それらをまとめる観光拠点として「道の駅」があるべき。
- ・ 管理運営者は、民間公募が必要ではないか。
- ・ ゾーニングについて道路計画はどのようになっているのか。
- ・ 「道の駅」を見て、笠間市内を見ないようでは意味がない。
- ・ 「道の駅」の期待として笠間市の基幹産業である、農業従事者の収入向上、就業

率アップ、農産物の販売拡大が期待できる。

- ・ 「道の駅」を単なる通過機能でなく、滞在拠点としての整備をしては。
- ・ 観光客が笠間市内観光地の行き先を考えられるような、インデックス機能が重要である。
- ・ 農家として、収入が上がるのは喜ばしいことである。
- ・ 施設整備の費用を抑えてほしい。生産者への販売手数料・使用料に反映してしまうため、初期投資は抑えた「道の駅」整備を望む。
- ・ 農産物を購入し、市内観光をしている間に下ごしらえをしてもらい、帰宅する時に持ち帰れるシステムを導入しては。
- ・ 「道の駅」における野菜などの鮮度に対する期待は大きい。
- ・ 「道の駅」に来訪する意味・理由付け・名物をつくるべきである。
- ・ 直売所として考えると、観光客よりも地元住民の消費が大きいと考えられる。観光客（休日）及び地元住民（平日）も視野に入れた整備にしてほしい。
- ・ 現在の「JAみどりの風」の売り場面積より、整備をする「道の駅」の売り場面積は大きくしてほしい。
- ・ 農産物販売を通して、観光客と地元生産者とのつながりを作りたい。
- ・ レストランで地元食材を使い提供し、食事した人がその食材等を買って帰れるようなシステムをつくれれば、宣伝効果にも成り得る。
- ・ 販売後の残った農産物等の再利用を検討してほしい。
- ・ 農産物直売所の商品をレストランで利用する場合、売れ残った商品をレストランで利用されるという表現は消費者は喜ばない。
- ・ 地元の食の豊かさを表現できる「道の駅」であるべきである。

- ・ 農家同士の競争を生み、良い品質の野菜が生産されることが望ましい。
- ・ 「観光客が買うから地元住民も買う」のではなく「地元住民が買うから観光客も買う」というのが望ましい。
- ・ 直売所の手数料については十分な配慮が必要。
- ・ 24時間稼働する点から防犯面には力を入れるべきである。照明灯や防犯カメラの設置などが必要である。
- ・ 食品の加工販売については、衛生管理にも力を入れるべきである。
- ・ 笠間焼協同組合としては、周辺施設とバッティングしないよう、焼物の窯元、販売店等の情報発信源の場としてほしい。
- ・ 里山暮らしという丁寧なイメージがある。食材を残さないという古来の発想は大事で、新鮮さとは別の観点から、古くなってしまった食材ならではの味わい方を提案して無駄のない取り組みをするべきである。
- ・ 「道の駅」のみで自己完結するのではなく、まちへの勧誘機能を持たせ、周辺施設へも集客を促せるような「道の駅」を目指すべきである。
- ・ 市民が自分たちの拠点と感じられる「道の駅」にするために、「道の駅」を拠点とした市民参加を推進することが求められる。例えば「道の駅」でお弁当づくりをアイデアコンテストと称し市民が参加する場としてはどうか。
- ・ 「道の駅」の観光情報において「菊」という言葉を取り込んでいけるか検討してほしい。今年度は菊まつりに82万人来訪している。
- ・ 地域の周遊のゲートウェイであり地域魅力のショールームであり、地域のコミュニティの核である「道の駅」としてほしい。

【出席者】

(1) 笠間市「道の駅」整備推進協議会 委員 (※ 順不同、敬称略)

1	立教大学 観光学部 教授・観光学科長 観光研究所所長	東 徹
2	株式会社パーティー・フォー 代表取締役 (国土交通省道路中期計画有識者メンバー)	石井 みな子
3	食空間コーディネーター (文教大学 非常勤講師)	田淵 弘子
4	武蔵野美術大学 基礎デザイン学科 非常勤講師	白濱 力
5	オフィスフレール代表 フードアドバイザー (笠間市ブランディングアドバイザー)	藤原 浩
6	茨城交通株式会社 執行役員運輸部長	飛田 潔
7	常陽銀行友部支店長	水上 浩
8	常陸農業協同組合 代表理事副組合長	南指原 賢治
9	常陸農業協同組合 笠間地区直売所生産部会部会長	柴田 良一
10	一般社団法人 笠間観光協会会長	本間 敬
11	笠間市区長会会長	大津 廣司
12	笠間アグリビジネスネットワーク協議会 会長	永田 良夫
13	笠間市市議会議員	橋本 良一
14	笠間市市議会議員	小松崎 均
15	笠間市副市長	久須美 忍
16	笠間市市長公室長	塩畑 正志
17	笠間市総務部長	中村 公彦
18	笠間市産業経済部長	米川 健一
19	笠間市都市建設部長	大森 満
20	笠間市農業公社事務局長	内桶 克之

(2) 笠間市「道の駅」整備推進協議会 事務局

1	笠間市産業経済部農政課長	金木 雄治
2	笠間市産業経済部農政課農政企画室長	田中 博
3	笠間市産業経済部農政課農政企画室主査	大嶋 信二

(3) コンサルタント

1	三井共同建設コンサルタント株式会社	高橋 恵一
2	三井共同建設コンサルタント株式会社	芳賀 章
3	三井共同建設コンサルタント株式会社	江内谷 義信
4	三井共同建設コンサルタント株式会社	岡部 義諒
5	三井共同建設コンサルタント株式会社	森田 舞
6	株式会社計画・環境建築	吉田 眞
7	株式会社計画・環境建築	桜井 寛